

不祥事根絶のための行動計画

廿日市市立佐伯中学校
校 長 松田 智広

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

求められる教職員像・教育の原点

子どもたちは、私たちの姿を見て育ちます。

【使 命】私たちは、子どもを守り、育てます。 【遵 法】私たちは、法令を遵守します。

【公 正】私たちは、不祥事を許しません。 【公 開】私たちは、地域に開かれた学校にします。

廿日市市立佐伯中学校 教職員の決意〔宣言します〕

「いけんことは、いけん！」

～ 私たちは、教育の原点を忘れず、実践します。 ～

区 分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の 規範意識の 確立	○教職員間の連携をより密にし、生徒の様子や教職員の勤務に関することなど、小さな気付きを交流すること。 （教職員同士がお互いに指摘しあえるようにすること。）	○教職員間のコミュニケーション量を増やし、小さな気づきやヒヤリハットについて、話すことができるようにする。 ○学年会を職員室で行い、オープンにしている。	○教職員が連携・交流する時間を生みだす。 ① 諸会議・諸研修等の回数や内容、実施時間の見直し・精選を行う。 ② 学級経営や生徒指導などの悩みが語られ、支援を行う学級サポート体制をつくる。 ③ 折に触れ、学年会を行う。（気づきや悩みを交流する場をつくる。）	○学期に1回、教職員へのアンケート調査を実施する。 ○不祥事防止委員会で情報交換を行い、状況を把握する。
	○他学級や他学年の生徒の実態や指導の内容が見えやすいようにしていくこと。	○学級・学年・教科の壁を低くし、他の学級や授業へも、積極的に入り込むことができるようにする。	○学級や授業に入りやすい雰囲気づくり。 ○研究推進の一環として、「10分間授業参観週間」を設定し、学級・学年・教科の枠を越えて、気軽に参観しあう場をつくる。	○「10分間授業参観」の実施状況を学期末に把握する。
学校組織 としての 不祥事防止 体制の確立	○鍵の管理や情報セキュリティへの意識を向上させ、確実に実践していくこと。	○「使ったら返す」という当たり前を徹底させる。 ○個人情報の適切な管理・保護、流失・紛失を未然防止するための研修を行い、実践する。	○情報管理や情報セキュリティに関する研修を実施するとともに、個人情報の適切な扱いについて、注意喚起する。 ○公的USBの使用を定着させる。	○鍵と個人情報の管理状況について、随時点を点検行う。
	○生徒指導や生徒理解の在り方について、担任や学年主導とならないよう、生徒指導主事を中心として、組織として指導していく体制を定着させていくこと。	○個人プレーの生徒指導を払拭させる。 ○適切な言葉や表現で、児童生徒に接することができるよう、技量を高めるとともに、互いに意識し合う職場の雰囲気醸成する。	○生徒への指導にあたっては、生徒指導主事を中心に方針を立て、原則、複数で行うことを徹底させる。 ○生徒指導に関する報告・連絡・相談を徹底させる。 ○何かあれば、「みんなで動く！」をキャッチフレーズとして、声をかけ合って、協働して実践する。	○各自が意識して、学年会で点検し合う。 ○毎月の生徒指導部会や学年会にて情報交換を行い、状況を把握し、改善策を練る。
相談体制の 充実	○生徒や保護者と教職員、教職員間のコミュニケーションをより密にしていること。	○教職員同士のコミュニケーションをさらに促進し、風通しのよい職場を築く。	○生徒の教育相談週間を機能させる。 ○校内研修においては、学年、校種を越えてグループ編成を行い、交流の幅を広げる。	○学期に1回、不祥事防止委員会にて状況を把握し、改善策を練る。
	○教職員のメンタルヘルスに関する職場内の相談体制を築いていくこと。	○明るく元気な職場、気楽に声をかけあい、悩みが相談できる職場にしていく。	○教職員のメンタルヘルスに関して、スクールカウンセラーによる研修を行う。 ○定期的に管理職による面談を実施する。	○学期に1回、不祥事防止委員会にて状況を把握し、改善策を練る。